

# 鈴木論文は HPV ワクチンの害を示す

浜 六郎

## 名古屋市調査と鈴木論文

名古屋市は 2015 年 9 月に 7 万人を対象にアンケート調査を実施し [1]、同年 12 月に「接種後の症状は HPV ワクチンとは無関係」との速報を発表しました [2]。強く批判されて半年後に撤回しましたが [3]、2018 年 3 月に、解析を担当した鈴木らが論文を発表し、「HPV ワクチンと報告された症状との間に因果関係がないことが示唆される」と結論しました [4]。この論文の欠陥を解説します。

## 受診症状は 13 症状で有意に増えている

鈴木らの論文が検討した 24 種類の症状のうち、ワクチン接種後に受診するに至った症状はすべての項目で非接種群よりも多く、うち 13 種類で統計学的に有意に増えています。特に、認知や知的機能、運動機能の異常を示す症状で著しく高くなっていました。

例えば、「簡単な計算ができない」「簡単な漢字が思い出せない」の危険度（オッズ比）は、それぞれ 5 倍と 6 倍でした。運動機能の異常を示す「ふつうに歩けなくなった」は 2.7 倍でした [4]。鈴木論文では「杖や車いすが必要」で受診した人は 1.02 倍と報告されていますが、計算間違いでしょう。非接種群は 0 人で、接種群には 16 人もいましたから。統計学的には 9.6 倍となり有意です。

## 接種前の症状で補正すると接種後には 10 倍超

接種前に、「計算ができない」「漢字が思い出せない」「ふつうに歩けない」「杖や車いすが必要」の症状で受診した人は、当センターの解析では（論文未公表）、非接種群は接種群のそれぞれ 4.7 倍、2.3 倍、7.3 倍、8.7 倍いました。この違いは接種後にも持ち越されます。これを全く考慮しない鈴木らの解析方法は、HPV ワクチンの害を過小評価することになります。接種による危険度は、正しくは「簡単な計算ができない」は 15 倍、「簡単な漢字が思い出せない」は 24 倍、「普通に歩けなくなった」は 16 倍、「杖や車いすが必要」は約 80 倍と推定されました。

## 接種率が高くなると非接種群に病者が集中

日頃から発熱しやすいなど病がちの人はワクチン接種を控える傾向があり、体調不良の人には接種されません。そのため、接種群には健康な人が多く含まれ、非接種群に病気が人が集中します。ワクチンに害も効果もない場合でも、単純に接種群と非接種群の症状の出現頻度を比較すると、接種群に症状・病気が少なく、非接種群に症状・病気が多く現れ、効果の面でも安全面でも、ワ

クチン接種群に有利に働きます [5]。これは、健康者接種効果 “Healthy vaccinee effect” あるいは健康者使用バイアス “Healthy user bias” など [5,6] と呼ばれます。

ワクチン接種率が 90% 程度にも達すると、接種しなかった残りの 10% の集団（非接種群）に「病気の人」が集中し、非接種群中の病者が著しく増えます。名古屋調査で、接種前に非接種群で症状があり受診した人が最大で 8 倍もいたのはこのためです。接種後の見かけのオッズ比を 8 倍すると本当の HPV ワクチンの危険度となります。

## 鈴木らは病者除外交絡バイアスを認識しながら無視

鈴木ら [4] は、初回接種時の暦年は異なるが、各集団の初回接種時の年齢が同じ（11～14 歳）になる 4 つの集団を作って解析し、ワクチン接種率が高い集団では、年齢を補正したオッズ比が低く、接種率が低くなると急速にオッズ比が高くなったと報告しました。まさしく、前項で述べた健康者使用バイアスが影響しているのです。

鈴木らも、「生物学的な因果関係は存在しそうにない」「ワクチン非接種群の少女の健康状態が比較的悪かったためかもしれない」と、事前の健康状態の関与を認識して考察をしています [4]。しかし、病院受診に至った症状のうち 13 種類の症状で最大 6.15 にも上る有意に高いオッズ比が認められた点に関して、この重大なバイアスの関与を考察せず、むしろ無視しています。

## 間違った利用を許してはいけない

鈴木論文は、「5 年近くも事実上接種がストップしている HPV ワクチンの安全性を証明する重要な根拠の一つ」「ワクチンを打つのに迷いを感じている親子を安心させる材料となりそうだ」と論評されています。HPV ワクチンの接種を推進したい人たちにとって、格好の「科学的根拠」になり、HPV ワクチンの安全性を誤って一般に認識させる材料になるでしょう

しかし、「HPV ワクチンと報告された症状との間に因果関係はない」という鈴木論文の結論とは裏腹に、名古屋調査からは、HPV ワクチンが認知・知的機能の異常や運動機能の異常を示す症状を、接種しない場合の 10 倍超、「杖や車いすが必要で受診した」人に至っては 80 倍も起こりやすくなることを示しています。

いろんな立場から、大いに批判を展開してほしいと思います。

参考文献は、<http://npojip.org/sokuho/180308.html> を参照してください。